

## 第 2 ～ 5 回青少年教育のあり方に関する検討小委員会報告資料

## 第 1 回検討小委員会での位置づけと進め方

- ・社会教育委員の会議の下の会議とする。
- ・対象者を絞り込むには、「佐賀市版子ども・若者白書」を作る。佐賀市の数字を押さえ、その中身を話し合い、どういう問題があるかを拾い出す。
- ・関係すると思われる機関に意見を聞きながら中身を押さえていく。

## 第 2 回検討小委員会 平成 24 年 9 月 26 日（水）18：30～20：30

○出席：上野委員（座長）、谷口委員、平川委員、木原委員

荒金社会教育部長、青少年課

○説明（青少年課）

資料から第 1 章 子ども・若者の成育環境と第 3 章 子ども・若者の安全と問題行動について説明。【資料 2-2】

○意見

佐賀市版の白書には、国には入っていない項目を入れて、可能な限り佐賀市ベースの数字を追求していきたい。

数字だけでなく生徒指導の先生や県警の担当者の話を聞き、青少年センターに求める機能は何か、どういった人をターゲットにした方がよいのかなども聞く。

全てのことを青少年センターでできる訳ではないので、できる部分を絞り込む。

## 第 3 回検討小委員会 平成 24 年 11 月 12 日（月）18：30～20：30

○出席：上野委員（座長）、谷口委員、平川委員、木原委員

荒金社会教育部長、青少年課

○説明（青少年課）

資料から第 2 章 子ども・若者の社会生活について説明。【資料 2-3】

○意見

佐賀市としての何らかの施策展開を考えたとき、佐賀市の子どもたちがどのように動いているのかを押さえていく上では、子どもの貧困というのは非常に重要。

佐賀市のデータが出てこないと動けない。類推できるようなデータが並ぶだけでも、子どもたちの状況やどういう施策が必要かというイメージが湧いてくる。

問題を抱える子ども・若者の要因別に、「これはサポステで」「これはアウトリーチで」「これは青少年センターで」というような見取り図が出てくると、青少年センターで何をすべきか、どこに重点をおくべきかがみえてくる。

佐賀市版子ども・若者白書は、佐賀市の数字をできるだけ使って作り、実態については、関係者から直接話を聞かなければ判らない。

**第4回検討小委員会** 平成25年 1月28日(月) 18:30～20:30

○出席：上野委員(座長)、谷口委員、平川委員、木原委員

佐賀県学校教育課指導主事 池田忠徳氏、指導主事 田代文則氏  
荒金社会教育部長、青少年課

○説明(佐賀県学校教育課)

生徒指導担当、不登校担当の立場から、県立高校の「不登校」と「スクールカウンセラー」、「中途退学者」、「県内高卒者の有効求人倍率」などについて説明をしていただく。

○意見

青少年センターを利用した「学校を中退した子ども」や「在学中の生徒」が、少しでも希望が持てるような、あり方を考えていきたいが、そのモデルがないから、各方面からのアドバイスをいただきながら、進めているという状況だ。

まだ探っている状況なので、県学校教育課の先生方には今後も引き続き助言をいただきたいと思う。

**第5回検討小委員会** 平成25年 1月30日(水) 18:30～20:30

○出席：上野委員(座長)、谷口委員、平川委員、木原委員

佐賀県警察本部生活安全部少年課課長補佐 桑原宏樹氏  
荒金社会教育部長、青少年課

○説明(佐賀県警本部少年課)

警察の現場での様々な体験談、支援・サポート活動などについて説明をしていただく。

特に、平成6年から始められた「立ち直り支援活動」、平成16年6月から始められた「居場所づくり」などについて、詳しく説明をしていただく。

○意見

大抵、問題は夜に起きる。昼間だけの対応ではなく、24時間体制の施設が必要。

佐賀市青少年センターで、全てのことをできる訳ではないが、「やった方がいいこと」や「やるべきこと」の絞り込みをする必要がある。「立ち直り支援ができるか」というと、現時点では厳しい。家庭に問題がある、居場所がないなど、これまでの線引きでは答えがでない子を私たちはターゲットにしていけないといけない。

子ども・若者白書の佐賀市版を作ってみて、まずは私たちが量的にどういう問題を抱えているのかを押さえた上で、県内には、子ども・若者をカバーした施設がどれだけあり、その施設にはどのような機能があるのかを把握したうえで、青少年センターの立ち位置、それから、お互いのネットワークの張り方を考えていかなければと思う。

**第6回検討小委員会** 平成25年 2月18日(月) 18:30～20:30(予定)